科目名	日本語・日本文化論	英文表記	Japanese and Japanese Cultural Theory	2011年3月18日
科目コード	6003			

教員名：網谷　厚子・滝　雅士
技術職員名：

作成

対象学科／専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
全学科	専1	選	学修	2単位	講義	前期

目標及び評価方法

目標項目	評価方法及びその割合
①日本語・日本文化の特性を学び、発表することでコミュニケーション能力を身に付ける。	「日本語・日本文化論」の授業では、小論文・創作・作品分析・ディスカッション・リポートを通し、日本語・日本文化の特性を学び、自らを取り巻く社会の在り方や課題、国際社会での日本（日本語・日本文化）の位置について広い視点・視野から考察させるとともに、コミュニケーション能力を鍛え、その成果を評価する。（当番のオモロの発表資料＜ポスター＞10%、発表10%、博物館見学のリポート10%）
②日本語による創作を行い、創造的言語力を育成する。	作品の内容の評価（30%）
③日本文化について調査・研究する。	調査・研究リポートの評価（40%）

高専目標

1	2	3	4	JABEEプログラム名称	機械システム工学	情報通信システム工学	メディア情報工学	生物資源工学
			◎	JABEEプログラム教育目標	C-1,C-4	A-1,C-3	C-1,C-4	B-1,C-2

授業概要、方針、履修上の注意

①第1～5回は滝が担当する。各学生に当番のオモロを割り当て、そのオモロについて調査・研究し、発表する。形式は個人研究によるポスターセッションを予定。ただし、履修者数等によりPBLに変更する場合がある。また、『おもろさうし』理解のため、沖縄県立博物館の見学を予定している（現地集合／公用車以外の交通費および入場料等自己負担）が、こちらも先方との調整の結果等によっては実施できない場合がある。その場合は当番のオモロの研究発表（オーラル・プレゼンテーション）等に切り替える。
②第6から第15回まで網谷が担当する。学生の創造的・主体的活動を行わせ、科学・技術者としての言語的運用能力を向上させる。また、日本語の特性、日本文化の特質についても関心・興味を持たせ、世界の中での固有性に気づかせる。

教科書・教材

①第1～5回（滝担当分）教員自作プリント、提示資料
②第6～15回（網谷担当分）『日本語の詩学ゑ遊び、喩、多様なかたち』（網谷厚子著。土曜美術社出版販売、学生に配布）

授　業　計　画

回次	授業項目	時間	授業内容	予習項目
1	『おもろさうし』の概観	2	『おもろさうし』の概観を講義する。	
2	『おもろさうし』の研究	2	『おもろさうし』を調べるための基礎的文献と調べ方について学んだうえで、当番のオモロについて調	
3	沖縄の民俗文化の理解1―『おもろさうし』読解のために	2	沖縄県立博物館にて尚家本『おもろさうし』や沖縄民俗文化関連の展示物の見学を行う(現地集合／公用車以外の交通費および入場料等自己負担)。※先方との調整の結果等によっては実施できない場合がある。その場合は当番のオモロの研究発表に内容を切り替える。	沖縄県立博物についての事前調査
4	沖縄の民俗文化の理解2―『おもろさうし』読解のために	2	沖縄県立博物館にて尚家本『おもろさうし』や沖縄民俗文化関連の展示物の見学を行う(現地集合／公用車以外の交通費および入場料等自己負担)。※先方との調整の結果等によっては実施できない場合がある。その場合は当番のオモロの研究発表に内容を切り替える。	
5	『おもろさうし』の研究発表	2	当番のオモロについて調査・研究した内容を発表する(ポスターセッション形式を予定)	当番のオモロの調査・研究および発表資料(ポスター)の作成
6	日本文化を創造するⅠ	2	短詩型文学作品(短歌)を創作する。	短歌の創作方法について研究しリポートを書く。
7	日本文化を創造するⅡ	2	自作品を書道で表現する。	自宅でも練習する。
8	日本文化を創造するⅢ	2	自作品を書道で書き、「歌会始」に挑戦する。	

9	日本語の歴史	2	日本語の成り立ちについて理解を深める。	「死後」となっている日本語を調べリポートにまとめる。
10	日本語の特質	2	現代日本語の特徴についての知識・教養を高める。	
11	日本文化の諸相Ⅰ	2	日本のの伝統文化ついての理解を深める。	
12	日本文化の諸相Ⅱ	2	日本の「神」についての知識・素養を身につける。	日本の「神」について調査
13	「変化(へんげ)」の不思議	2	古典作品や現代の作品における「変化」について論	
14	日本語のレトリックの特徴	2	日本語の様々なレトリックなついて理解を深める。	
15	日本語のレトリックの特徴	2	日本語のレトリックを活用した作品の制作。	
	学習時間合計	30	実時間	25

学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）

当番のオモロに関する調査・研究および発表資料（ポスター）の作成。
博物館見学におけるリポートの作成。

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。（50分＝1、100分＝2）